小立野寺院群

# いし曳（びき）の道

前田家ゆかりの寺社と出会う坂のまち。

KODATSUNO

TEMPLE AREA

# 「いし曳（びき）の道」を歩く

小立野寺院群は台地にあり、兼六園から南東へ真っ直ぐに延びる“いし曳の道”に沿って少し高低差があるところに点在している。

兼六園下から歩いてみよう。加賀友禅会館前を進むと松山寺の山門が見えてくる。坂道の土塀が絵になる「八坂」を上りきったところには、加賀八家・奥村家の上屋敷跡（現金沢医療センター）がある。横山家ゆかりの松山寺からは鶴林寺、源太郎川沿いに安楽寺、また奥村家とゆかりのある永楽寺へ。小立野台へと上る「馬坂」はその昔農夫が馬を使って行き来したという由来があり、途中には馬坂不動尊がある。上りきったところの高源院は年に一度、無病息災を祈願する人たちで溢れる「一ツ灸」のお寺である。少し歩くと前田家の菩提寺「宝円寺」があり、ここには琳派の始祖・俵屋宗達のお墓がある。この辺りは、近くの谷から水がドドっと流れ、川岸の木をメキメキっとなぎ倒したことから「百々女木町（どどめきちょう）」と呼ばれた。周辺にもいくつかの寺院があり、なかでも善徳寺の本堂、鐘楼の彫刻は見事。五代藩主綱紀が建立した如来寺では、市民が彫り上げた石仏群も見られる。

金沢で一番大きい寺院と言われる「天徳院」は必見である。二代将軍徳川秀忠の次女に生まれ三代藩主利常の正室となった珠姫の菩提寺であり、ここではその生涯を描いたカラクリ人形物語も上演されている。青々とした苔も美しい境内は秋、紅葉の名所として訪れる人も多い。ここから少し先にある上野八幡神社境内には芭蕉の句碑が静かに建っている。

石引の交差点から天神坂の卯辰方面に下り、長い階段を上ると前田家の祈祷所であった椿原天満宮。その先の細い道をたどると、芭蕉の句碑も残る田井菅原神社がある。石引の交差点に戻ると、角には下馬地蔵の祠がある。ここからは大通りの高台から下りへと進むコース。最初の細い道に入ると金沢でも老舗の酒蔵が目に入ってくる。波着寺から下は白山坂。慶恩寺からの二十人坂、真行寺へと傾斜が続き、眼下には美しい町並みが見え隠れする。旧地名を欠原（がけはら）町と言い、谷間には勘太郎川が流れ、江戸時代からの名残の坂道が連なる。棟岳寺から少し進むと嫁坂に至る。ここは小立野から本多町への坂道で、藩政時代の初期、篠原出羽守が娘を嫁がせる荷物を運ぶために切り開いたと伝えられている。

唯念寺から本行寺へと進むと、本多の森の樹木が一面に広がる。静かな住宅街を左に進めば禅の精神を世界に広めた「鈴木大拙館」へと続く。右折して緑に囲まれた大乗寺坂（藩政時代の大乗寺はこの地にあった）を上ると県の石引駐車場に出る。左に進むとこの辺りは本多の森の文化施設が立ち並び、石川護國神社の鳥居が目に入る。なまこ塀が美しい成巽閣の横には、兼六園の一画である朱塗りで鮮やかな拝殿の金澤神社。金沢の地名の起こり金城霊澤もぜひ見ておこう。県立美術館から広坂を下ると石浦神社へ。四季の移ろいが美しい兼六園からは石垣の変化も楽しめる金沢城公園へと続いている。

## 下馬地蔵

もともとは金沢城築城の際に石垣の石を運ぶための安全を祈って建てられた。後に天徳院の下馬先として祠が建てられ、武士はここで馬を降りて天徳院に詣でていた。現在は地蔵尊が残り、「下馬地蔵」と呼ばれている。

坂道ひとつにも物語がある。
祈りの心は加賀藩の昔から変わらない。

## 寺院・神社めぐり

# いし曳（びき）の道

□の寺院は拝観不可です。

本堂・山門：金沢市指定有形文化財

円通山 曹洞宗 **松山寺** ① D5

拝観 境内のみ 可

慶長四年（1599）、横山山城守長知が創建し、丹波国氷上郡の円通寺住職・融山泉祝を招いて開山とした。長知の父・長隆は、加賀藩初代藩主・前田利家の府中（福井県越前市）時代の家臣。松山は、長隆の戒名である。

雲松山 曹洞宗 **鶴林寺** ② E5

拝観 境内のみ 可

開山は大乗寺三代明峰和尚の弟子大智。延元年間（1336～40）、石川郡吉野谷村に祇陀寺を建立。後年、越中（富山県）守山に再興。さらに金沢八坂に移り、三代利常の命で鶴林寺と称するようになった。十四代暖源の時、前田家の祈願寺となる。

法真山 浄土宗 **安楽寺** ③ E5

拝観 境内のみ 可

慶長７年（1602）、越前の脇田兵部重季がこの地に僧立空等摂を招き開山。三代利常の小姓脇田猪之助の位牌と代々の墓がある。脇田直賢は前田家二代～五代まで仕えた。作家中野重治が当寺に下宿し、著書『歌のわかれ』に当時のことを記述している。

万松山 曹洞宗 **永福寺** ④ D6

拝観 境内のみ 可

加賀藩老臣奥村永福が天正年間（1573～92）、利家より寺地を得て建立。永福は利家の兄・利久に仕え、利家が前田家を相続した後には利家に仕えた。天正12年（1585）、佐々成政の攻撃を受けた能登末森城を、守将として死守した話は有名である。

本堂・庫裏・山門及び築地塀：国登録有形文化財

福母山 曹洞宗 **高源院** ⑤ E7

拝観 境内のみ 可

開山の春尭和尚が初代利家の息女・福姫の縁類となったことを感謝して寛永18年(1641)、大豆田に建立。福姫の戒名より高源院と称した。万治2年(1659)当地に移転。金沢西国29番の霊所。毎年7月1日には「一ツ灸」が執行される。

黄竜山 臨済宗 **献珠寺** ⑥ F7

拝観 境内・建物内 不可

慶安4年(1651)、加賀藩士・横山式部長治の妻・海元院が、母・献珠院のために母の帰依僧・遠山を招き建立。献珠院は初代利家の孫娘・蕭姫である。無住の時代を経て元禄(1688～1704)末年、妙心寺の嵩山を招き臨済宗に復した。

護国山 曹洞宗 **宝円寺** ⑦ E6

拝観 境内 可 建物内 可 有料

初代利家が建立した寺で、開山は利家が越前府中(福井県越前市)時代に帰依した大透圭徐禅師。藩主一族の位牌が安置された前田家の菩提寺である。墓所内には、利家の自画像と髪を納めた御影堂・御髪堂や江戸初期の画聖俵屋宗達の墓がある。

竜峰山 曹洞宗 **瑞雲寺** ⑧ E7

拝観 境内・建物内 不可

寛正6年(1465)、州山が越前府中(福井県越前市)にて創建。天正18年(1590)、三代蘭室が金沢に来た際、初代利家の家臣寺西宗与が開基となって木ノ新保に建立。ソ連抑留者供養のためダモイ観音が安置され法要が行われている。

浄見山 曹洞宗 **一閑院** ⑨ F7

拝観 境内・建物内 不可

一閑院は寛永8年(1631)宝円寺五代泰山が、鶴来村に建立、明治5年(1872)、現在地に移転した曹洞宗の名刹である。禅師は戦国大名朝倉義景の第三子で名刹宝円寺の住職を務め、総持寺を大本山に格上げする功績を残し、晩年一閑院に過ごした。

醒井山 真宗大谷派 **長周寺** ⑩ G7

拝観 境内のみ 可

嘉禎2年(1236)、近江の国、醒井城主・廣田稲葉守重長が出家し、教西坊となり当寺を創建。後の文明3年(1471)、第七世・善智坊が本願寺蓮如に随って北国で布教した折、金沢の石引に移った。

普照山 真宗大谷派 **乗円寺** ⑪ G7

拝観 境内のみ 可

はじめは天台宗普照寺と称したが、住職善永は越前吉崎にあった蓮如上人を訪ね教化を受ける。延徳元年(1489)真宗に転じ乗円寺と改称。二代永乗は越前の永正一揆、四代恵秀は大坂石山合戦に参加して戦功著しく、恩賞を受ける。

宮腰山 真宗大谷派 **仰西寺** ⑫ G7

拝観 境内 要許可

開山は泰澄大師。石川郡大野庄宮腰(現・金石)に建立し元明寺と称した。その後、熊谷入道蓮生坊が再建し、天台宗を改めて念仏宗として仰西寺と呼ばれた。正応3年(1290)、本願寺三世・覚如上人が北陸巡行の際、浄土真宗に改宗し、仰西寺と改名した。

今浜山 真宗大谷派 **即明寺** ⑬ H7

拝観 境内・建物内 不可

文禄2年(1593)、善龍法師が能登の国羽咋郡小川村に創建したことが起こり。明治元年(1868)金沢の荒町へ移ったのを機に転居を繰り返し、昭和4年現在地へ移転。武家造りの座敷には本尊ならびに什宝物などが安置されている。

龍林山 真宗大谷派 **等願寺** ⑭ H8

拝観 境内のみ 可

慶長7年(1602)、津幡弘願寺の隠居・遊林院の子・等覚坊龍念が森下町で創建。万治2年(1659)大火で全焼し、三代利常より現在地を拝領し移転。享保16年(1731)再び類焼したが、本堂内陣と石垣塀は火災を免れ当時の姿が残っている。

城端山 真宗大谷派 **善徳寺** ⑮ I8

拝観 境内のみ 可

慶安3年(1650)、越中の城端善徳寺の六代顕勝が金沢材木町に掛所を建立したのが始まり。万治元年(1658)、三代利常より現在地を賜り移転。明治12年(1879)、善徳寺支院と改称。平成6年(1994)、本院から独立して真宗大谷派 善徳寺となる。

寿福山 日蓮宗 **経王寺** ⑯ I9

拝観 境内 可 建物内 問い合せ221−4873

慶長10年(1605)、三代藩主利常の生母・寿福院が養仙院日護を招いて創建(但し、開山は寿福院の異母兄・善住院日淳)。後年、火災にあったが正保4年(1647)、寿福院の十七回忌にあたり利常が再建した。加賀騒動のヒロインお貞(真如院・六代吉徳の側室)の墓がある。五重石塔は有名。

本堂：金沢市指定有形文化財

竜宝山 浄土宗 **如来寺** ⑰ I9

拝観 境内 可 建物内 問い合せ221−0833

天正年間、越中国砺波郷増山に岌台上人が如来寺を開山。その後寛文２年（1662）前田家五代藩主綱紀が生母清泰院（徳川光圀の姉）の位牌所として建立。伽藍焼失後、文化10年（1813）、十二代斎広により現在の御堂が再建。金沢市指定有形文化財。

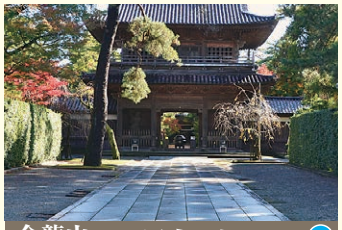
金城東山 真宗大谷派 **専修寺** ⑱ I8

拝観 境内・建物内 不可

正徳５年（1715）、開基慶円によって能登の国羽咋郡米出村に専修坊と号し、一寺を建立したことが起こりである。

明治12年（1879）、当地に移転した時に、専修寺と名付けられた。

山門：石川県指定有形文化財



金龍山 曹洞宗 **天徳院** ⑲ J10

拝観 境内 可 建物内 可 有料

元和９年（1623）、三代利常が正室、珠姫の菩提寺として創建。寺号は珠姫の法号に因むもので、当時四万坪の敷地を有し、後に五百石を拝領した。五代綱紀が建立した伽藍は、明和５年（1768）の火災で焼失（十代重教が再建）したが、山門は当時のもの。

真宗大谷派 **大含寺** ⑳ K9

拝観 境内・建物内 不可

明治22年（1889）、浅川村下田上（現在の金沢市田上町）出身の田中正道によって創建された。

町名にちなんで松下町説教場と称し、聞法の場として親しまれている。昭和22年（1947）、大含寺となった。

真宗大谷派 **聞敬寺** ㉑ L10

拝観 境内のみ 可

延宝５年（1677）、現小立野１丁目付近に聞敬坊として創建。文政４年（1821）、七ヶ町村の惣道場として現在地に建てられ、明治13年（1880）聞敬寺となる。金一色塗りの宝相華花草文様が見事な内陣の欄間は、200年以上前の寺院欄間様式。

**上野八幡神社** ㉒ L11

拝観 境内のみ 可

かつて医王寺と称された。天正年間（1573 ～ 92）、能州石動山天平寺の僧・空山が、後の加賀藩初代藩主利家と親しく、石動山の麓に建立。金沢山崎郷（小立野白山町）を経て享保16年（1731）、現在地に遷座。境内には芭蕉句碑がある。

**椿原天満宮** ㉓ F9

拝観 境内のみ 可

菅原道真を祀り、永仁５年（1297）、京都北野天満宮より勧請。その後、前田家の祈祷所となり、金浦郷の総社となって田井天満宮と称した。寛永年間（1624 ～ 44）、「椿原山」と称する現在地に移転し、明治期には椿原神社に改称した。

**田井菅原神社** ㉔ E10

拝観 境内のみ 可

道明寺にて田邊家の先祖が菅原道真より賜った自画像を祀っている。一向一揆を経て金沢の地にとどまり、江戸時代には筆頭十村役を拝命。明治13年（1880）、邸内に神社が建てられた。初詣で紅白の鏡餅を奉納。芭蕉の句碑がある。

**猿丸神社** ㉕ J5

拝観 境内のみ 可

金沢最古の神社の一つで、参道には天保14年（1843）の石灯籠一対がある。創祀の由来は、小倉百人一首の「奥山に紅葉ふみわけ鳴く鹿の…」の作者猿丸太夫の旧跡と伝えられる。本殿には十一面観音も安置され、毎年８月に観音講が行われる。

泰澄山 真言宗 **波着寺** ㉖ I7

拝観 境内のみ 可

神亀年間（724 ～ 729）、泰澄大師が福井県一乗谷に創建し、白山信仰の寺として栄える。前田利家の金沢入城とともに、現在の兼六園の梅林付近に寺地を得る。元和５年（1619）、現在地に移転する。前田家の祈祷所として栄えた。

桂山 真宗大谷派 **願成寺** ㉗ H6

拝観 境内・建物内 不可

開基である大和国生まれの教導が、北国巡回中の明応６年（1497）、越中砺波郡刃利村（現・桂村）において創建し、願成坊と称した。天明７年（1787）、金沢に移転。明治９年（1876）、寺号公称が許され、願成寺と改めた。

戸室山 真宗大谷派 **圓證寺** ㉘ H6

拝観 境内・建物内 不可

永正元年（1504）、藤原重之が出家し、貞珊と名乗って一宇を建立し、圓證寺と称した。藤原重之は戦いに敗れ、河北郡戸室新保村に隠れ住んでいたが、山号はその地名に由来するもの。慶安３年（1650）、火災により、現在地に移転した。

加須良山 真宗大谷派 **慶恩寺** 29 H6

拝観 境内のみ 可

延徳３年(1491)の創建と伝えられる。僧慶心は金沢御堂の建立にともない本願寺の命を受け御堂衆を務めた。その後、越中から飛騨を布教し、90歳で飛騨白川村加須良に示寂した。木ノ新保から犀川河原町を経て万治元年(1658)、当地に移った。

法隆山 曹洞宗 **真行寺** 30 H6

拝観 境内･建物内 可 要予約

寛永８年(1631)、本多家の家老・篠井雅楽助が州岩の篤信道念に感じ入り、一宇を建立したのが起こり。州岩は、豊臣方の部将・木村重成縁故の役僧で大乗寺十五世謙室呑益和尚を講じて開山とした。寺宝に矢田四如軒筆の絵画二幅がある。

宝林山 曹洞宗 **棟岳寺** 31 H5

拝観 境内のみ 可

明応元年(1492)、越前南条郡領主・赤座長秋が父母の供養のために建立した。慶安２年(1649)三代利常より寺地を拝領。前田家の御典医・江間家の菩提寺でもあり、日本最初のオランダ医学の先駆者、吉田長淑などの墓所がある。

江西山 臨済宗妙心寺派 **瑞光寺** 32 H4

拝観 境内のみ 可

開山は愚渓和尚、開基檀越は才道二、伊藤外記。寛永９年(1632)、藩士・本多安房守が三代利常に寺地を請い新竪町に建立したが、水害にあい、現在地に再建。自覚大師の作と伝えらる観音立像は尾張の国の海中より出現したと言われる。

松岡山 真宗大谷派 **唯念寺** 33 H4

拝観 境内 可 建物内 問い合せ261−7688

慶長2年(1597)、寂善法師により創建、約430年前のことである。はじめは小立野にあったが、現在地に移転し本堂には聖徳太子二歳像が安置。現在の本堂は享保年間の建立と推察され、今から約230年前に建立された、大変古い寺院である。

久遠山 日蓮宗 **本行寺** 34 G3

拝観 境内のみ 可

元和３年(1617)、京都の寂光寺二代・本行院日海が創建。日海は日本初の棋聖本因坊であり、三代利常を指南し、そのお礼に寺地を得た。本多安房守、横山山城守の庇護を受ける。３度の火災にあったが明治36年(1903)再建した。

**石川護國神社** 35 E3

拝観 境内のみ 可

石川護國神社は、明治元年(1868)の戊辰ノ役で戦死した加賀藩士108名の戦没者のみたまを、同３年(1870)、卯辰山に招魂社を造営して祀ったのが、その始まり。昭和10年(1935)現在地に遷座され、昭和14年(1939)に社名を石川護國神社と改称した。

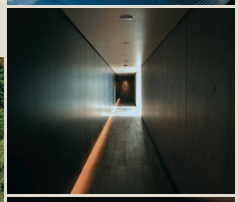
**金澤神社** 36 E3

拝観 境内のみ 可

寛政６年(1794)、十一代藩主前田治脩が、金城霊澤のほとりに菅原道真を祀ったことに始まる。創建当時は、藩校明倫堂の鎮守として、その後は竹沢御殿の鎮守とされた。明治７年(1874)兼六園公開とともに竹沢天神から金澤神社に改称。

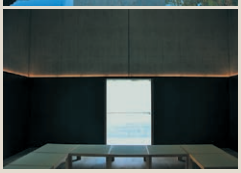
## 鈴木大拙館

金沢市下本多町3-4-20　TEL (076)221-8011
【開館時間】 9:30～17:00(入館は16:30まで)
【休 館 日】 月曜日(休日の場合はその直後の平日)、年末年始、展示替期間



### 知る、学ぶ、考える。
### 郷土が生んだ世界的な仏教哲学者 鈴木大拙の生涯と思想に出会う場所

ここ本多町に生まれた世界的な仏教哲学者・鈴木大拙の考え方や足跡を広く国内外の人々に伝え、理解を深めるとともに、来館者自身が思索する場として利用することを目的として開設された。館内は、鈴木大拙を知る「展示空間」、心や思想を学ぶ「学習空間」、自らが考える「思索空間」という3つの空間と、「玄関の庭」「露地の庭」「水鏡の庭」という3つの庭で構成されており、来館者がそれぞれ自由に大拙の思想にふれ、自分と向きあえる空間となっている。



### 坂道を歩き、歴史に出会う。

金沢三寺院群のなかでも、犀川と浅野川に挟まれた小立野台地は特に坂道が多い。兼六園から南東に向かって石引・小立野方面へと一直線の道が延び、その周囲に拡がる地形は複雑に曲がりくねり、緩やかな坂道や急な階段状の抜け道など、そこで暮らす人々の生活の知恵や匂いが漂っている。坂道を下る途中、生い茂る丘陵面の樹木の間から思いがけず絶景が飛び込んでくるのは嬉しいものだ。かつて木こりが通う八つの坂から名付けられた「八坂」。木曽の山中の幽すいに似ていることから「木曽坂」。農夫が馬を使っていた「馬坂」の途中には、目に効くといわれる不動尊が鎮座する。足軽二十人組が住んでいたところから付いた「二十人坂」。また、小立野から本多町方面へ下る坂は篠原出羽守が娘を嫁がせる際、荷物を運ぶため開削したことから「嫁坂」と言われるなど、坂の多い「小立野寺院群」は微笑ましい歴史と風情にも出会えるエリアである。

大乗寺坂

馬坂

嫁坂

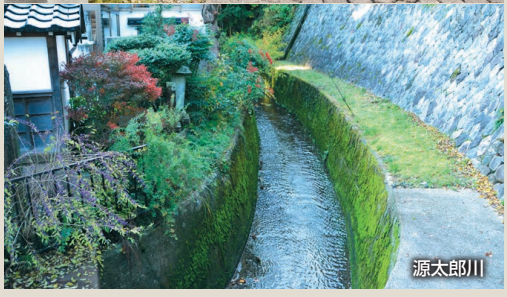
亀坂

八坂

木曽坂

二十人坂

新坂


源太郎川

勘太郎川

小尻谷坂

# 小立野寺院群マップ

## いし曳の道 散策ルートのご案内

※散策には右記の距離・時間を参考にして下さい。
（あくまでもルート設定は目安です。）

金沢を並行して流れる犀川と浅野川。金沢城はこの2つの川を天然の外堀とした「小立野台地」の先端に築かれた。その際、戸室山から切り出した石垣を運んだのが「いし曳の道」であり、これに沿って前田家の菩提寺である宝円寺や三代藩主利常の正室・珠姫の菩提寺である天徳院など、前田家ゆかりの寺院が集められたと言われている。あたり一帯は起伏に富んだ地形で坂道が多く、いまも風情豊かな町並みを残している。

また兼六園の南側斜面にかけて広がる「本多の森」は、前田家の筆頭年寄「本多家」の上屋敷があった場所で、現在は県立美術館や中村記念美術館、鈴木大拙館などが集まる香り高い文化ゾーンとなっている。

↑小立野通り／表紙写真は如来寺の火灯窓

歩く、観る、祈る。

# 金沢三寺院群の旅

## 金沢三寺院群とは

元和2年(1616)ころ、加賀藩三代藩主・前田利常は金沢城の防備や寺社の管理、人別(現在の戸籍)を行うため、さらには一向宗対策として、城下に散在していた寺社を3か所に移転・配置した。城の南東にある「小立野寺院群」、北東の「卯辰山山麓寺院群」、南西の「寺町寺院群」。それぞれに趣きのある3つの“寺のまち”を歩けば、知らなかった金沢が見えてくる。まずは一番訪ねてみたい寺院を決めて、その近隣を巡ってみてはどうだろう。

発 行
金沢市観光政策課
金沢市広坂 1-1-1　☎076-220-2194　FAX 076-260-7191
https://www.kanazawa-kankoukyoukai.or.jp

金沢旅物語　検索

※各寺社の御朱印・御朱印帳の有無は HP よりご確認いただけます。
御朱印はすぐに対応できないことがございますので、あらかじめ各寺社にお問い合わせいただくことをおすすめします。

※このパンフレットに掲載の内容は、令和6年時点のものです。